

「医療ソーシャルワーカー キャリアラダー・モデル

～セルフチェック実施後、今後の機関内運用を考える～

日時：8月29日（土）14：00～14：20

目的：ラダーのセルフチェックを実施し、その課題と今後の展望（機関内運用）についてご意見を頂きました。

方法：Zoomにて実施

インタビューイ：田口 峻氏（道南勤医協函館稜北病院）

インタビュアー：松原（研修部）



田口氏



松原

【自己紹介】

・勤務する機関の機能について教えてください。

勤務している病院は函館稜北病院で、急性期の病床と回復期リハビリテーションの病床を持っていて、併せて104床の中小規模の病院です。おおまかにいうと、リハビリを目的に力を入れており、あと在宅診療の二つを主に頑張っている病院です。地域のかかりつけ医という機能も持っていたので、函館稜北病院の他にクリニックも持っています。

・所属する部署について（ソーシャルワーカー数など）教えてください。

地域連携室に4名所属しています。所属長は、ソーシャルワーカーではないですね。看護師です。今年の冬に、役職が主任のソーシャルワーカーもいたのですが、その人が退職してしまって、今は自分が一番上になってはいるのですが、特に役職がついているわけではなく、何となく同僚から相談を受けることはあるのですが、組織としてバイザー役という形にはまだなってはいないです。

【ラダーを始めたきっかけ】

・実施への動機づけと、始めた時期について教えてください。

はい。自己学習はしていきたいなと思っていたんですが、どういう風に勉強しようとか、どういう方向で学んでいこうというところが自分の中で具体的になっていなくて、そこでキャリアラダーを見た時に、いい方向性の指標になるなと思って、まずやってみたいと考えたのが最初ですね。それは去年の冬くらいの時期でしたね。

【セルフチェックをした後の感想について】

・最初にセルフチェックしたときは、どの位時間がかかりましたか？

そうですね…、そんな厳密ではないですけど、そんなにはかからなかったです。15分~20分くらいだったと思います。語句とかわからない場所があったので、そこは最低評価という感じでしたけど(笑)。

・ラダーは全項目チェックしたのか、自分のイメージする大体のレベルからつけていきましたか？
その中でどこの項目が難しかったですか？

そうですね。大体このくらいかなというところ、ラダーレベルのⅢからつけてみました。そこから「自分はどうか」と評価しました。項目としては、理論の項目が、自分の知らない言葉が出てきていたので、そういう意味ではE評価をつけましたね。

・5つの項目のバランスとして、理論と実践、教育、研究、管理とありますがいかがでしたか？

厳密にそこまでグラフ化していなかったのですが、どこが突出しているのかというのは…。多分、その中では実践が高い評価になっていて、理論と研究は低かったと思います。

・実際に部署の皆さんにもラダーのセルフチェックをして貰ったのですか？

今、「みんなでやろうよ」と相談している最中で、これからというところです。

今考えていたのは、それこそ皆で議論を重ねている最中なのですが、自分がスーパーバイザーとなって評価をするというよりも、同僚は経験年数が同じくらいの人が多いので、ピアスーパービジョンを取り入れられないかなと考えています。私が函館の大学出身なので、大学の先生に相談したりしたうえで、皆と話をしていました。

- ・ご自身で評価したときに、客観性という部分で、「果たしてこの評価で妥当か」と不安になることはありませんでしたか。

そうですね。不安はあまりないのですが、ラダーを見ている中で「自分でどう思うのかな」という部分で、自分だけではなく他の人からの評価も欲しいなというところがあったので、一人ではなく皆でやろうと相談しているところです。

下の人からしたら、「なかなか自分(田口：自分より経験のある人)を評価するというのはできない」ということを言われたりするんですけど(笑)。経験年数としては自分が一番上で、それでも5,6年目くらいです。今年、新卒で1年目のワーカーも入ってきました。(MSWとしては)大体1年目~6年目位くらいの集まりです。

- ・仮に部署でピアスーパービジョンを実施するとしたら、どれ位のスパンで実施と考えていますか。

今考えているのは、他者評価でつけるというのでは半年に1回くらいかなとは思っていました。

【ラダーへの期待】

- ・ラダーがあることで何が変わるかというところをお聞かせください。

自分として、あって助かったなと思ったのは、色んな学習の機会はワーカー協会で設定してくれていると感じていたのですが、「自分がどういうソーシャルワーカーになりたいか」と考えた時に目指す指針が、職場の先輩しかいない環境もあって、目指すべきものがわからないことがありました。ラダーがあると、一定の方向性、勉強していく方向性が見えてきます。自分のイメージするワーカー像と照らし合わせながら、目標を定め、ラダーにもきちんと沿ってというところで使っていける気がして、魅力的で利用したいなと思ったんですね。これがあって良かったなと思っています。

【実施していく人にむけてメッセージ】

- ・これからラダーを初めてやってみようという人へ、取っ掛かりとして何に気をつけて実施していけば良いか教えてください。

そうですね、一つ目は「とりあえずまずやってみる」感じで良いのかなと思ったのですが、二つ目は自分一人だとくじけてしまったり、学習を一人でやってもつまらなかったりもするので、みんなでチームを作ってやっていくという環境であれば、個人的には面白いかなと思います。

- ・今後初めてラダーをやっていくという人に、背中を後押しするパワーフレーズをお願いします。

そうですね、もしやろうかどうか迷っている人がいるのであれば、「とりあえずやってみる」ですね。

【協会へのお願い（望むこと）】

・最後に、協会にどのような体制があれば良いか、何をして貰いたいのか忌憚のない意見をお願いします。

こうしてほしいとかは、具体的にはないのですが、この間7月4日にやってくれたようなキャリアラダーの学習会で、色んな人と意見交換できる機会は大変参考になりますし、今後もそのような機会を設けて頂けると有難いと思いますし、Web学習会も企画して頂いているので、函館の地からしてみると助かるなとも感じています。

田口さん、インタビュー有難うございました！